

平成 23 年 4 月 11 日

報道関係者各位
プレスリリース

財団法人日本健康開発財団
研究調査部

入浴に伴う体調不良/事故は1万回で0.43回
一般住民を対象にした疫学調査結果を医学専門雑誌に掲載

財団法人日本健康開発財団研究調査部（本研究責任者：部長 早坂信哉）と浜松医科大学医学部健康社会医学講座が共同で一般住民を対象とした調査を行い、一般住民の入浴に伴う体調不良や事故の発生率を疫学研究として明らかにし、その結果が国際医学専門雑誌「Journal of Epidemiology」（疫学雑誌）のオンライン版 2011 年 4 月 9 日公開）へ掲載されましたので、下記の通りお知らせいたします。

1. 背景・趣旨

- ・ 浴槽（バスタブ）使った入浴（以下、浴槽入浴）は本邦では一般的な習慣ですが、海外でこのような習慣を持つ国はほとんどありません。そのため、浴槽入浴に関する海外での研究は多くありません。
- ・ 入浴で（例えば立ちくらみや転倒など）体調を悪くすることは時々身近でも見聞き、あるいは体験することですが、これまで浴槽入浴に伴う体調不調や事故に関しては、救急医療で搬送実数や法医学的な検討が多く、何回入浴すると何回そのような体調不良や事故が発生するのかといった頻度（発生率）は明らかではありませんでした。
- ・ 今回、浴槽入浴の回数と体調不良/事故の発生頻度につき一般住民を対象とした、ほぼ初めての疫学調査を行いました。

2. 研究結果の概要

- ・ 静岡県のある地区の一般住民 617 人（40-74 歳）に対して 2008 年に疫学調査を行いました。
- ・ その結果、過去 1 年間では顔面蒼白、意識消失、転倒といった 8 件の体調不良/事故事例が報告されました
- ・ 入浴 1 万回あたりの体調不良/事故件数は 0.43 回でした。
- ・ これまで入浴に伴う死亡者の実数の報告が主で、その危険性が報告されることがありましたが、本研究結果から体調不良/事故の頻度としてはあまり高くないと思われました。さらに浴槽入浴の習慣が健康増進に寄与するといった報告がこれまでなされており、上記のような入浴関連の体調不良/事故の現状を把握し、安全に配慮した入浴を行うことがさらに健康的な入浴につながる可能性が示唆されました。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-29-4

日本橋蛸殻町東急ビル

財団法人日本健康開発財団研究調査部 早坂 後藤

TEL 03-3668-1261 FAX 03-3668-1263